

第146号 ボランティア通信

コロナ禍におけるボランティア活動の様子

新型コロナウイルス感染症が流行したことで、地域のボランティア活動も自粛が続き、交流が縮小されている中でも頑張って活動している方々取材してみました。



私たち、ふれあい安心電話のボランティアは、一人暮らしの高齢者に週1回の安否確認を行っています。

新型コロナウイルス感染症の影響で、外出の機会が減り、人と話すことが減っているせいか、1回あたりの通話時間が増え、丁寧に対応するようにしています。

新型コロナウイルスに関する話題も多く、新聞やニュースなどから情報を得て、新しい情報を提供できるよう心がけています。「聞いてくれてありがとう。」や「話してスッキリした。」等、感謝の言葉に自分自身もやりがいを感じています。

能代市ボランティア連絡協議会 小山 佳代子

社会福祉協議会のほっとあったかサービスの援助員として登録しています。短期間の活動なので、わたしの活動スタイルにピッタリです。

感染対策をしっかりと、利用者との会話を大事に活動しています。話すことで心と心がつながる気がしています。

コロナ禍の中、心のケアが一層大切になるので、利用者の不安や、困っていることを解消できるよう頑張っています。

ほっとあったかサービス援助員 浅田 育子



毎月、第2木曜日にサンピノを会場に傾聴ボランティアサロンを開催しています。新型コロナウイルス感染症の影響で、参加者も少なくなっていますが、ボランティアスタッフ同士も、仲間に会えることで、元気と勇気をもらい、サロンを訪れた人たちに、元気をわけてあげられるような活動をしています。

とにかく笑って帰ってほしいと笑顔をお届けしています。

傾聴ボランティア 萌の会 原田 かほる



ジュニアボランティアスクール



夏休みの期間を利用し、小学生から中学生までを対象としたジュニアボランティアスクールが2日間にわたって開催されました。

1日目は午前にはパラリンピックの正式種目であるボッチャを体験し、午後からはパステルを使った和みアートを行いました。ボッチャを実施する際は、障がいや年齢に関係なく、誰もが楽しめるスポーツであると講師の方から教えていただいた後、わかりやすくルール説明をしていただきました。作戦を考え、最後まで集中して取り組み、みんなで楽しむことができました。

和みアートでは、それぞれで独自のデザインを考え、一つ一つの工程に真剣に取り組んでいました。参加した小学生、中学生は物づくりへの関心が高まり、大きな達成感を感じていました。



2日目はUVレジン（紫外線を当てると固まる透明な樹脂）を使った小物入れづくりとコミュニケーション能力向上のためのゲームを交えた講座を行いました。

小物入れづくりでは、細かな作業もあり、苦戦する場面もありましたが、講師のかたに丁寧に教えていただき、笑顔で完成させることができました。

コミュニケーション能力向上のための講座では、ボランティア活動に関する講話を聞いた後、ペアやグループを作って、コミュニケーションをとりつつ進めるゲームを体験しました。

これらの活動のなかで失敗はあったものの、周囲と話し合い、修正し、成功につながるよう取り組み続けている様子が見え、子供たちにとって、今回の経験が今後につながる大変貴重な経験になったと思います。



【連絡先】

能代市ボランティアセンター

TEL：89-6000 FAX：89-6800

【お願い】

この通信をご覧になってのご意見・感想をお寄せください。

